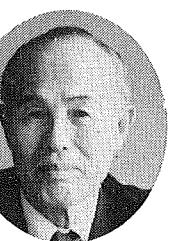


新年のごあいさつ

岡山県畜産会会長 花尾省治



新年明けまして、お目出度うございま
す。

一九八〇年代、頭初の昭和五十五年は
不確実性の時代といわれ、更に、不透明
への時代といわれています。この一年間
は、内外情勢とも誠に厳しい年だったと
いえます。

近年基幹作目の米をはじめ牛乳、乳製
品、豚肉、鶏卵、ブロイラー等、過剰化
の日本農業といえます。即ち、過剰化と
生産物の実質価格の値下がりといつてよ
いと思います。

昨年の夏は、梅雨明け後、ぐずついた
天気が続き、気温も低く、日照時間は平
年の八割程度といわれ、低温多雨、日
照不足、このことが稻作をはじめ、粗飼
料、稻葉等、農業生産に悪い影響を及ぼ
しただけでなく、冷夏は乳業（牛乳、ア
イスクリーム）販売の不振となり、乳製
品在庫の消化はできず、計画生産に苦し
む生産者にとって追打ちをかけられ一層
の打撃を与えました。

このことは、流通環境の悪化を生み、
全国的課題として環境整備、L.L.牛乳問
題等惹起しています。又豚肉においても

牛乳と同様、生産増のため二年続きの生
産調整で、その対策として養豚農家の実
態調査、品質の向上と消費の拡大を進め
ています。

飼料事情は、昨年七月から補てん財源
の枯渇によって、トン当たり五千円の実質
値上げとなつており、さらに五六一年一月
から大巾な値上がりになる見込みです。

世界的異常気象はアメリカ、ソ連、欧州、
中国等の高温、冷害、特に世界的貿易の

三分の一を占めるアメリカの減産は、わ
が国畜産農家に大きな痛手となつています。

日本での輸入食糧の大部分をアメリカに
依存しており、このように世界的異常気
象に見まわれることを考えると、永久に
世界の食糧事情が安泰であるといい切れ
ぬものがあります。できる限り食糧（畜
産物）の自給に努めることを原則とせね
ばなりません。

農政審議会は、昨年十月三一日、「農
産物の需要と生産の長期見通し」をまと
め、六十五年度を目指し、米、麦、牛
乳、肉類等、主要農産物を対象に、需給
動向を作成、答申しました。

酪農ではこの見通しをもとに、第四次
産調整で、その対策として養豚農家の実
態調査、品質の向上と消費の拡大を進め
ています。

新春座談会
80年代和牛に期待するもの…2

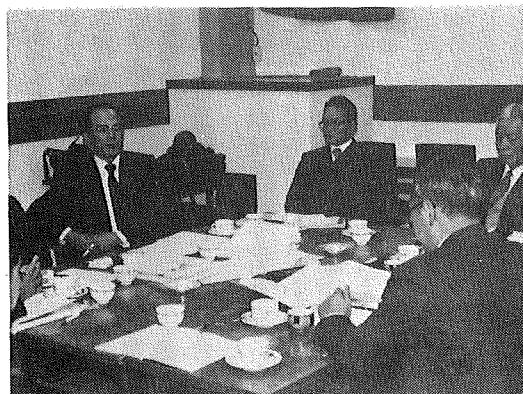
年頭にあたつて
花尾省治…1
表紙裏

目次

花尾省治…1
表紙裏

年頭にあたつて
花尾省治…1
表紙裏

年頭にあたつ



新春座談会

'80年代和牛に

司会：新年おめでとうございます。
本日は新春座談会といたしまして、和牛に深く関わっている方々にお集まりいただきました。

現在、畜産物のほとんどが過剰傾向の中にあります。わが国では毎年約50万tの牛肉を消費しているわけですが、その三分の一の約15万tを輸入しております。従いまして、我々は牛肉の国内での増産を進めて行かなくてはいけないわけです。八〇年代は牛肉の年代ともいわれておりますので、本日は、本県内用牛のホープであります和牛をどのように振興するか、あるいはどのように經營するかをお話し願いたいと思います。

まず初めにわが国の和牛の現状及び将来の方向について、三宅副会長さんに、お話しをお願いします。

馬場：本県の和牛の現状は皆さんと承知のとおりであります。一応、飼養頭数等を申し上げてみますと、飼養頭数は、昭和四十五年から昭和五十五年までの十年間に、六八、九〇〇頭いたものが三一、五〇〇頭になり、また、肉用牛飼養戸数にしましても、三三、一二〇〇戸が一〇、一二〇〇戸というように減少していくのが現状です。

肉用牛振興策はいろいろ盛りだくさんにあるのですが、頭数はどうも減少の一途をたどっており、仲々効果が上がりません。

しかし、最近、子牛価格が上昇しており、子牛市場の価格が子牛の生産費を上まわったということとは、非常に飼育農家を勇気づけていると思います。従って、頭数の減少も底が見えてきて、今後は明るい方向に向うものと期待しております。

行政としては、肉用牛の増頭ということを頂点にかかげて取り組んでおり、広い意味での飼育環境を整備するということを中心に行っております。具体的に申しますと、改良対策では、本県の和牛の特色であります、増体能力を維持しながら肉質の改善を進めていくことを目標にしています。また価格対策では、特に子牛の価格安定対策の充実を図り、また家畜導入事業等も強化してまいっております。しかし、なんといいましても、今

ます。

馬場：本県の和牛の現状は皆さんと承知のとおりであります。一応、飼養頭数等を申し上げてみますと、飼養頭数は、昭和四十五年から昭和五十五年までの十年間に、六八、九〇〇頭いたものが三一、五〇〇頭になり、また、肉用牛飼養戸数にしましても、三三、一二〇〇戸が一〇、一二〇〇戸といいうように減少していくのが現状です。

肉用牛振興策はいろいろ盛りだくさんにあるのですが、頭数はどうも減少の一途をたどっており、仲々効果が上がりません。

しかし、最近、子牛価格が上昇しており、子牛市場の価格が子牛の生産費を上まわったということとは、非常に飼育農家を勇気づけていると思います。従って、頭数の減少も底が見えてきて、今後は明るい方向に向うものと期待しております。

■山地放牧について

司会：今、中国山地の放牧利用の話が出ましたが、試験研究・技術開発の面で、どのように取り組んでいるのか、逸見場長さんお願いします。



馬場 氏

後考えていかねばならない重要な課題は、子牛の生産費を下げるということだと思います。外國からの輸入飼料に依存することなく、国内での資源を使って牛を作れるよう努力しなければならないことです。

そういう面からも、山地の有効利用を中心に行って行く必要があります。しかしながら、山地放牧をして牛を作れる方の問題を解決する必要があります。

馬場：私はその点、山地畜産という割り切り方ではないに、一頭飼いでも、二頭飼いの精銳主義でいくかといふに農家側としては悩みがあるのではないかでしょう。

馬場：私はその点、山地畜産という割り切り方ではないに、一頭飼いでも、二頭飼いの精銳主義でいくかといふに農家側としては悩みがあるのではないかでしょう。

馬場：私はその点、山地畜産という割り切り方ではないに、一頭飼いでも、二頭飼いの精銳主義でいくかといふに農家側としては悩みがあるのではないかでしょう。

馬場：私はその点、山地畜産という割り切り方ではないに、一頭飼いでも、二頭飼いの精銳主義でいくかといふに農家側としては悩みがあるのではないかでしょう。

出席者

三宅忠雄
岡山県和牛試験場
岡山県畜産課
岡山県経済連畜産部
岡山県肉畜基金協会
全国和牛登録協会岡山県支部
司会
岡山県畜産会局長 竹原 宏

期待するもの

三宅…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万t、豚肉が一六一萬t、鶏肉が一一六・一万t、その他が三二万tといふ情況です。牛肉の需要量は、肉全体の需要量から見て、余り大きいものではありませんが、牛肉の需要量は年々増えておりまして、最近では毎年ふた桁の伸びを示しております。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万t、豚肉が一六一萬t、鶏肉が一一六・一万t、その他が三二万tといふ情況です。牛肉の需要量は、肉全体の需要量から見て、余り大きいものではありませんが、牛肉の需要量は年々増えておりまして、最近では毎年ふた桁の伸びを示しております。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万t、豚肉が一六一萬t、鶏肉が一一六・一万t、その他が三二万tといふ情況です。牛肉の需要量は、肉全体の需要量から見て、余り大きいものではありませんが、牛肉の需要量は年々増えておりまして、最近では毎年ふた桁の伸びを示しております。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万tで、他は輸入に依存しているわけです。また、国内生産の内訳をみると、純粹の肉専用種である和牛のシェアが三七・四%、乳用オスが三一・七%、乳用メスが三〇・九%、子牛が〇・五%といふふになっています。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万tで、他は輸入に依存しているわけです。また、国内生産の内訳をみると、純粹の肉専用種である和牛のシェアが三七・四%、乳用オスが三一・七%、乳用メスが三〇・九%、子牛が〇・五%といふふになっています。

三宅 氏



合、今後、一〇年後の食肉なり家畜の頭数をどう増やすかという点ですが、日本の食糧全体の需給計画が先般不されまして、そこで肉用牛の比重も明らかにされております。それによりますと、現在二一五・七万頭の肉用牛がいるのですが、これを昭和六十五年度には、三九二万頭に増殖する目標をたてております。この中身をみると、国内生産が四〇万tで、他は輸入に依存しているわけです。また、専用種は二四五万頭含まれておりますから、専用種は二四五万頭頭増殖するわけで、現在より、約一〇〇万頭増やさなくてはいけません。これは国が七〇年の自給を目指として算出した数字です。

本年もそうですが、最近の世界的な異常気象、例えばアメリカの熱波による穀物の減産等から、飼料事情も厳しくなり、これから、専用種は二四五万頭頭増殖するわけで、現在より、約一〇〇万頭増やさなくてはいけません。これは国が七〇年の自給を目指として算出した数字です。

本年もそうですが、最近の世界的な異常気象、例えばアメリカの熱波による穀物の減産等から、飼料事情も厳しくなり、これから、専用種は二四五万頭頭増殖するわけで、現在より、約一〇〇万頭増やさなくてはいけません。これは国が七〇年の自給を目指として算出した数字です。

司会：それでは次に本県和牛の現状及び振興対策について、馬場主幹にも願いします。

司会：それでは次に本県和牛の現状及び振興対策について、馬場主幹にも願いします。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万tで、他は輸入に依存しているわけです。また、国内生産の内訳をみると、純粹の肉専用種である和牛のシェアが三七・四%、乳用オスが三一・七%、乳用メスが三〇・九%、子牛が〇・五%といふふになっています。

馬場…それでは、まず、現況から述べますと、食肉の需要量は、昭和五十四年度が三六九・五万tで、そのうち牛肉が五八・四万tで、他は輸入に依存しているわけです。また、国内生産の内訳をみると、純粹の肉専用種である和牛のシェアが三七・四%、乳用オスが三一・七%、乳用メスが三〇・九%、子牛が〇・五%といふふになっています。

司会：今、中国山地の放牧利用の話が出ましたが、試験研究・技術開発の面で、どのように取り組んでいるのか、逸見場長さんお願いします。

逸見…和牛試験場としましては、放牧期間はどのくらいが適当かとか、どのような牛が放牧に向くかとか、将来、放牧適性牛はどういうふうに改良を進めれば良いとか、それなりに試験をやっております。例えば、林畜複合経営の総合研究ですが、これは、岡山、広島、山口の各

司会：今、中国山地の放牧利用の話が出ましたが、試験研究・技術開発の面で、どのように取り組んでいるのか、逸見場長さんお願いします。

逸見…和牛試験場としましては、放牧期間はどのくらいが適当かとか、どのような牛が放牧に向くかとか、将来、放牧適性牛はどういうふうに改良を進めれば良いとか、それなりに試験をやっております。例えば、林畜複合経営の総合研究ですが、これは、岡山、広島、山口の各



氏見逸

本松：最近ではそういう牛が良いということが序々に理解されてきていますので昔に比べて放牧牛もだいぶ見直されています。

柳井：登録の方では、発育について農家技術者ともに関心を持っていました。一応基準を作つてやつております。現在、審査をする場合、栄養を五段階に分けていまして、三を栄養普通、二をやややせている、四をやや飼い過ぎ、というふうにしています。それで、審査をする場合過去においては放牧牛のような骨格は良いか肉がやや軽いというような牛は利だったのですが、今後は放牧牛を奨励しないではいけないという意味におきまして、やや普通より肉が軽いという牛は審査をする時に1%程度甘くみて、逆に肉が付き過ぎという牛につきましては、1%を辛く審査していくという方法で放牧牛をよう護していくという審査のやり方をしております。

馬場：私が放牧を推進するため、広い意味での飼育環境の整備と申し上げたのはどうですか。

司会：そういう点について、登録の方ではどうですか。

柳井：登録の方では、発育について農家技術者ともに関心を持っていました。一応基準を作つてやつております。現在、審査をする場合、栄養を五段階に分けていまして、三を栄養普通、二をやややせている、四をやや飼い過ぎ、というふうにしています。それで、審査をする場合過去においては放牧牛のような骨格は良いか肉がやや軽いという牛は利だったのですが、今後は放牧牛を奨励しないではいけないという意味におきまして、やや普通より肉が軽いという牛は審査をする時に1%程度甘くみて、逆に肉が付き過ぎという牛につきましては、1%を辛く審査していくという方法で放牧牛をよう護していくという審査のやり方をしております。

馬場：私が放牧を推進するため、広い意味での飼育環境の整備と申し上げたのはどうですか。

司会：そうしますと、これからは岡山の牛も大分みなおされきてきそうな情勢ですね。そこで、次に、第四回全共対策についてお話し下さい。



氏井柳

馬場：昭和五十一年に、第二回全共が終わりましてその反省会を開き、その中で第四回全共対策を申し合わせたわけですが、それに基いて、県段階の各団体等が集まりまして、昭和五十四年に二回準備会を開き、昭和五十五年一月に第四回全共対策協議会を結成しました。第四回全共はまず牛の指定交配から入つて行こうということになりました。全国和牛登録協会岡山県文部の柳井さんを中心、経済連、県の出先等と連絡をとりあって進めています。この全共の成果によつて、本県の肉用牛の真価が問われますので、成績が上がるように関係者の協力を得て努力してまいりたいと考えております。

司会：柳井さん、指定交配についてご説明下さい。

柳井：交配については、過去の共進会では農家まかせだったのです。農家が生産した子牛を育成家が選定し、各々の自分の研究の下に育成して、それで優劣を決めていたような現状なのです。それが、今後の共進会といいますと、生まれた子

牛に出品資格がありますので、早い牛は今年一月の市場に出るのではないかといふ状況です。市場に出て購入するという外に抜かれる傾向がありますから、市

これから種雄牛

司会：次に種雄牛の問題に移りたいのですが、本県のこれから種雄牛のあり方について、県の考え方をおきかせ下さい。逸見：和牛試験場としましては、体積、資質の両方を兼ね備えた種雄牛を飼養しようという目標で作業を進めています。

現在、一頭の種雄牛を飼養しておりますが、その中で直接検定、間接検定の終了した自信のある種雄牛の種を配布する月令を八ヶ月令ぐらい、仕上を二四ヶ月令、一日増体重〇・八五kgを維持し、その上で脂肪父雄を平均三・五にする目標として改良を進めています。本県和牛の特質であります増体の良さを維持し、肉質の改善を計らうという考え方で、一九頭の種雄牛を飼養しております。県の事業としましては、上の上で脂肪父雄を平均三・五にする試験場の良い種雄牛を指定交配し、生ま

はそのことです。昭和四十五年から六年にかけて、子牛の価格安定事業がでましまして、松葉さんを中心に苦労しています。昭和五十六年度はその最低基準価格をいくらにするか検討中であります。とにかく再生産できる最低価格を支持していきことが増頭につながり、放牧の推進につながるのだというふうに考えて

います。

この発想の根拠は酪農にあります。酪農の場合、昭和四十一年に加工原料乳不足払い制度ができ、県の統計によりますと、それまで酪農家一戸当たりの乳牛飼育頭数は二・三頭で伸び悩んでいたものが、不足払い制度の実施を契機として急速に規模拡大が進み、現在では一七・八頭となっています。

やはり経営が安定し、先の見通しが立つということが、増頭につながるのではないかと思つております。最低価格を保障することが、経営の設計の前進ではないかと考へています。

司会：ところで放牧牛の場合は問題がないかと思つております。最低価格を保つためにも、放牧地を骨を鍛えている牛は植段が高かつたわけです。ところが、今は骨にならない牛だったわけですから、役牛として、放牧場で骨を鍛えている牛は植段が高かつたわけです。その点を踏まえて、難かしい点があるのではないか。それから先般、アンケート調査をやつたわけですが、その結果から見て、放牧牛は大部分が実施されていません。里山程

度のものがわずか一%ぐらいで、放牧地を購入した後、飼いなおしをしなくても、そのまま大きく育つわけですが、濃厚飼料を多給した子牛は飼いなおしが必要です。購買者もその辺りに目覚めるべきでしょうね。これを解決しないと放牧は伸びないと思います。

松葉：もう一つ、基本的に放牧を進めようとしてむづかしい点は、かつて共同牧場等で、一〇〇頭、二〇〇頭という牛が放牧され、利用があつたわけですが、今はほとんどありません。放牧場がないわけではありません。ところが、放牧牛は

放牧地を与えてでも、放牧地を貸す

といふことです。

松葉：もう一つ、基本的に放牧を進めようとしてむづかしい点は、かつて共同牧場等で、一〇〇頭、二〇〇頭という牛が放牧され、利用があつたわけですが、今はほとんどありません。放牧場がないわけではありません。ところが、放牧牛は放牧地を貸す

といふことです。

松葉：もう一つ、基本的に放牧を進めようとしてむづかしい点は、かつて共同牧

れた子牛を県内に保留していくという事業です。また、優良繁殖牛保育選奨事業も実施していますが、これは県共に出るような牛を残せば二五万円を県と経済連で出すという事業です。この二つの事業でいい雌牛を県内に残していくということを行っています。

改良の面をふり返ってみますと、昭和四十五年、四十六年頃は増体能力のいい牛でないと牛ではないといわれた時代で、その頃は鳥取県の種雄牛がどんどん売れ、兵庫の牛はさっぱりでしたが、それが乳用雄子牛の出現等がありまして、このところ増体と肉質の評価が逆転し、兵庫の牛でないと牛ではないという時代が続いたわけです。しかし、今後はまたそれらが見なされるいくのではないかと考えております。改良は一〇年なり二〇年なり先を見て取り組むべきものであり、一時の流れに左右されなければならないと考えております。

司会：和牛の改良で重要なことは、出荷時の肉質を含めた産肉成績を子牛の生産農家にフィードバックするというような施策が必要だと思うのですが。

本松氏：その面からも見直されておりましてもあるのですが、最近、鳥取の増体のいい雌の子牛が高く売れだし、岡山の牛がその面からも見直されておりまして、本年の子牛の市場ばかりいいものになりそうな気がします。

アメリカのフィードロットも七〇%ぐらいしか肉牛が入っておりませんし、一〇%は価格が上るだろうということもいわれておりますので、市況は和牛の場合かなり期待できると思います。価格の問題が解決すると経営問題も片付くのではないかと思います。

司会：昨年から和牛問題懇話会を結成して経営問題、改良の方向といったことを検討しておりますが、懇話会長の逸見場長からこの会をご紹介下さい。

逸見場長：昨年から和牛問題懇話会を結成して、試験場、経済連、登録協会、基金協会、畜産会等が加わって検討を重ねていますようということで、検討を重ねてあります。昭和五十四年度は本県和牛の改良方向ということを検討し、昭和五十五年度は飼養管理、経営といった面を研究してきました。今後もこういった検討を重ねて岡山の和牛はどうあるべきか、どういった指導をすればもっと和牛が増えるか、といったことを討議し、



本松氏

馬場…そういう面で、島根県が非常に進んでいるようです。今後は本県でもぜひ繁殖農家に肉質を含めた産肉成績をフィードバックしたいと考えております。

■和牛の繁殖・経営について

司会：次に経営問題に移りたいと思いまして、これから繁殖和牛経営の在り方にについてお話を願います。

逸見場長：最初に三宅副会長がおっしゃった和牛繁殖計画ですが、全国で一〇〇万頭の増頭は可能だと思います。というのは北海道、東北、九州が本気になつたら一〇〇万頭の突破は可能だと思います。しかし、岡山県を見ますと、これ以上増えがたうかというは悲観的です。

では岡山県の牛をどうやって増やしていくかというのが経営問題につながると考えております。改めて一〇年なり二〇年なり先を見て取り組むべきものであり、一時の流れに左右されなければならないと考えております。

司会：和牛の改良で重要なことは、出荷時の肉質を含めた産肉成績を子牛の生産農家にフィードバックするというような施策が必要だと思うのですが。

本松氏：その方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がします。従って、山でやる人二~三頭の舍飼いで行く人と別れねばならないと思います。それが指導として中間的な夏山冬里をやりなさいというところが畜産の難しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわけですが、しばらくは試験場にまかせてもらつて、試験場が指針をだして初めて



竹原氏

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がします。従って、山でやる人二~三頭の舍飼いで行く人と別れねばならないと思います。それが指導として中間的な夏山冬里をやりなさいというところが畜産の難しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわけですが、しばらくは試験場にまかせてもらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がします。従って、山でやる人二~三頭の舍飼いで行く人と別れねばならないと思います。それが指導として中間的な夏山冬里をやりなさいというところが畜産の難しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわけですが、しばらくは試験場にまかせてもらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

もらつて、試験場が指針をだして初めて

山を利用する場合、方向を定めて特定

の方法で進めていかないと山での多頭で山地利用放牧というのは無理な気がしま

す。従って、山でやる人二~三頭の舍

飼いで行く人と別れねばならないと思

います。それが指導として中間的な夏山冬

里をやりなさいというところが畜産の難

しいところではないでしょうか。

試験場としては山地放牧に取り組むわ

けですが、しばらくは試験場にまかせて

家畜保健衛生所のページ

作州津山畜産風土記

津山家畜保健衛生所

このページを見下す五家保で順番にふさぐことになっている。既に岡山・高梁家を紹介がその業務内容を丹念に表現した。真庭家は、古老の伝える貴重な豪牛談議を紹介した。ここで、またぞろ家業業務を述べては重複して面白くない。

七 「計画を持て」長期の計画があれば
忍耐や工夫それに努力と希望が生れる

八 「自信を持て」その仕事には迫力と
粘りが伴な。

九 頭は常に「全廻転」八方に気を配れ
それがサービスというもの。

十 「摩擦を怖れるな」摩擦は進歩の母

費一円、受信料一か月四千円の経費である。
思うに乳牛に対する影響がある。とすれば、(あるという意見も多いが)それは二次的なもので、寧ろ人間様への影響即ち精神安定剤の効用、管理作業のリズム、牛に対する態度等々、飼育管理者へ

で、その便りなるものを書くこととした
職員が、見たり聞いたり感じたりの諸々
であり、云つて見れば、畜産こぼれ話か
畜産横丁の回覧板位かも。

卑屈未練になるな。
去る十月、俄かに逝かれた故白原宣社
長の面影を彷彿とさせるではないか。昭
和三十年代の半ばからプロライターが始ま

◇ 和牛の妊娠障害
の効果の方が有意かと分析しているのであるが、いかがかな。

有限公司岡山県北部ブロイラーの事業室に掲げられている社則は「鬼十則」と題して曰く。

一 仕事は「創るべき」で与えられるものではない。

二 先手先手と「仕事は働きかけて」いくもので、受身でやることではない。

三 「大きな仕事を取組め」小さな仕事を満足していくは己を小さくする。

四 「難しい仕事を狙え」それを成し遂げるところに進歩がある。

五 「取り組んだら放すな」目的完遂までは殺されても放すな。

六 「周囲を引き摺り廻せ」逆に引き摺られていては永い間に大差を生ずる。

この社則を読んで立場々々で十人十色の感じ方があるうが、職場の現役兵として夫々学ぶ点が多いと思う。

◇ 音楽と牛の泌乳

管内十戸の酪農家での事であるが、そこの牛舎では音楽を流し、それによつて乳牛達は毎日ウットリズムのよい気分で自然に泌乳量が向上しているそうだ。そのレパートリーは、歌謡曲、ヤングミュージック、ムード音楽、ラテン音楽から、ボビュラー音楽に至るまで彼女達の好みに応じて抜けてある。

これは大阪有線KK津山放送所との契約により受信しているもので、加入設備

肥えていたり、逆に痩せた牛の給与飼料を聞き取り飼料計算してみると標準をオーバーしている等困ってしまう。分娩後の産乳飼料を考慮に入れていない農家も多い。

誰かに豆粕がよいと聞けば、早速一日に一升も一升五合と与えて卵巢囊腫にしてしまう。麦は必要ないと聞けばワラだけの給与になつて卵巢萎縮。発情していないのにならないから判らなかつたで発情見逃しも可成り多い。結局牛生産にかける注意度の問題に帰すると思う。

これらの事例に対し、家保は特別指導を重ねていく。内診による次期発情予定日の目安、飼料計算に基づく飼料給与の

血液検査の結果から栄養代謝の説明などをして人工授精師や診療医へ連絡する。
血液検査で、ヘマトクリット値・総蛋白が正常範囲の場合、血中アルブミンは卵巣貯蔵期のものは一・五～一・七（g/dl）の範囲にあり、卵巣萎縮のものでは、二・一・四しかなく、囊腫や排卵遅延のものでは二・八以上にも及ぶ。成牛と育成牛では若干差があり、放牧育成牛では二・七を割っては増体しないようだ。
あれこれ理屈を云つても、とにかく必要量の粗飼料確保が第一のポイントで、解決はそこから始まる。それに運動、日光浴、愛情ある觀察と基本的問題が多い。

が経営を圧迫する。農業米えて農業興らざる。畜産經營には、経営者と家畜の間に give and take の紳士協定があり、それを成立させるための原則がある。今高位生産方式には、原則の一部に破綻を示しているものがあるのではないか。あまりにも、過密飼養・医薬品・濃厚飼料・人工的環境でとりまき、自然の大気・日光・ビタミン・ミネラル・運動、休息等のサイクルから離れて来た。

ホクラクの各位も強く多士済々である。
碁は、岡山県人の吉備眞備が大陸から
伝えたもので、晋の国に「樵夫が山で碁
を打っているのに出逢い、斧に座し観戦
した。やがて起ち上つてみれば、斧の柄
はすでにくさっていた。」という故事が伝
えられており、さすがに大人（タイジン）
の国だけあってオーバーな話題であるが
我が國でも「親の死目に逢えない」とい
う表現はよく使われることである。
菅原道真の詩に「碁は、いつまでも耄
碌することなく、かの樵夫が斧の柄を
くさらじた故事のように、年をとつてか
らも雑事を忘れて碁を打つことは大変楽
しい。どうかそうありたいものだ」との

の牧草は
ンカルで良い草を！

代と異なり、家畜は人が構成した環境下におかれている。費用のかかった畜舎鶏舎に入居し、居ながらにして飲めや食えやで温度湿度も調節してもらい、消毒ワクチネーション、抗園剤等医療供給に至るまで、まことに結構な暮しらしく見える。

◇ 日本棋院津山支部
な人間共め」と神様がおっしゃつてはい
ないだろうか。

を刺戟して脳軟化症防止にも有効である。そうな、頭の体操である。

世は一局の碁なりけり、と云われ、人生に通ずる面が多い。序盤における基本配石、中盤せり合い時の気迫、ヨセの手順、全局を常に見守る大局観、着手の優先緩急の序列判断、基盤、碁石の扱い方など、

牛 の健康、 緑 の牧草は
タンカル で良い草を

効果の早い タンカル肥料
持続性のある 土改1号、2号

足立石灰工業株式会社

岡山県新見市足立 TEL (08679) 5-711

振興局便り

高梁地方の畜産概要について

高梁地方振興局 北野幹男

当方は県の中西部に位置し、地域の中央を高梁川、東部を旭川水系が流れ、標高は、高原地帶では三〇〇から五〇〇

一方、西部地域は、低地の河川流域水
醸農、肉用牛等の生産団地が形成されて
いる。

昭和四五年の飼養
生物学用生

氣象は、年間を通じて霧が多く、年間平均気温は一二から一四℃で、低地と高原とでは三から四℃の差があり、年間降水量は一三〇〇から一四〇〇mmである。管内は、一市六町からなり、総面積は県土の一〇・五%を占め七四、五八六haで、この内經營耕地面積は、一〇%の七四六〇ha、全体の七六%の五六、八一haは林野であるが、開発可能地は極めて少なく、農家戸数は一〇・五八三戸、農業就業者数は一六、一八八人、經營耕地面積は一戸平均七〇aである。

古の山河、數等を列

地勢が急峻なため、生産基盤の整備が立遅れ、耕地の利用率が極めて低く、四和五三年における農業粗生産額は、一土八億八、〇〇〇万円で県内の八・五%を占め、この内畜産粗生産額は三四・九%を以て五八億九、六〇〇万円の最高で、次いで麦稲の二九・七%、五〇億一、二〇〇万円、工芸作物の一八・七%、三一億八、五〇〇万円の順位である。

高梁川によって管内は東西に二分され、東部地域は吉備高原を中心とし台地水田栽培をなし水稻、酪農、肉用牛、たばこ、い草、野菜等が生産され、また、山林障野を利用した草地、飼料畑の造成が進む。

地勢が急峻なたん

古くから里山、河川敷等を利用して肉牛生産を行なわれ、川上町、備中町、成羽町は県下の優良銘柄であった「高山牛」の生産地域で、生産牛は高梁市市場から県外に販売される肉用牛生産地域であった。しかし、昭和三十一年に入り乳用牛が飼養され、県外からの優良素牛の導入、公共育成牧場の建設、自給飼料増設のため飼料基盤の整備等の振興が図られ、增頭の一途をたどってきたため、肉用繁殖牛は、個体管理労力が大きいために多頭化経営が困難なことから後継者に恵まれず、年々頭数は減少してきた。ただ、肥育経営は多頭化され、専業農家が多くなってきた。

(二) 肉用牛

酪農粗生産額は一四億八七〇〇万円で、県内の一〇・六%に当り、畜産粗生産額の四二・一%と家畜別では最高であるが、昭和五四年度から生乳の計画生産が推進され、一八・四五六tの生産にとどまっている。

今後の酪農経営は、生乳計画生産を真剣に受け止め、優良搾乳牛の保育、粗飼料自給率の向上による生産費の低下に努め足腰の強い經營に脱皮する必要がある。

二、肉用牛

長い間、有農家における使役と、厩肥生産を主な目的として飼養され、農耕等使役利用後に短期肥育し、牛肉として利用されてきたため、昭和三五年には七、九三三戸、九六三八頭で、小規模繁殖經營農家が多かった。

昭和四五年には五、二五〇戸、八、四七〇頭に減少し、牛肉増産のため、乳用雄

よつて飼養戸数は激減し、昭和五五年には一五戸、三三一、〇三四羽、一戸平均一、四六羽である。飼養規模別には、五、〇〇〇羽以上農家は一〇戸であるが、その内、大型農家の内には管外からの移転によるものがあり、飼養羽数の多い地域は高崎市、川上町である。特に川上町、川上町に各二戸あり、當時一五四、〇〇〇羽を飼養し、年間出荷羽数四七〇、〇〇〇羽であるが、田代の建設十画がある。

内の家畜飼養頭羽数

(55) 2.1 現在家畜基本調查

区分	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		プロイラー	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数
高梁市	85	1,242	507	991	5	958	18	135,000	-	-
有漢町	14	246	97	154	3	323	26	84	-	-
北房町	38	706	300	1,165	25	1,783	70	30,000	-	-
賀陽町	87	1,860	154	2,120	9	1,058	4	44,700	-	-
成羽町	22	240	145	237	1	28	4	5,500	1	60,000
川上町	43	848	167	925	4	97	27	108,000	1	94,500
備中町	25	191	241	722	24	9,109	5	7,750	-	-
合計	314	5,333	1,611	6,314	71	13,356	154	331,034	2	154,500

は減少し、昭和五年においては、繁殖牛一、二八六戸、一、六六五頭で、県内の七・九%を占め、飼養規模別には、五頭以上飼養農家が一五戸と少なく、多頭化經營が伸び悩み、飼養頭数の多い地域としては、高梁市、北房町、備中町である。また、肥育牛は一八二戸、四、二四頭で、規模拡大が図られ、賀陽町、北房町が多い地域である。

肉用牛粗生産額は、昭和四五年に一億六、五〇〇万円で、畜産粗生産額の七・九%を占めていたが、その後、乳用雄子牛の肥育が盛んになり、九億七、九〇〇万円で一六・六%を占めるまでになつた。今後は、水田裏の有効利用等による粗飼料の増加作付、高齢者婦人等の飼養を奨励しながら、地域の特性を生かした里山等の利用、山地放牧等をより一層促進し、繁殖牛の増頭に努める必要がある。

管内での養豚地区は、県下屈指の備中町湯野地区であり、当地域は、昭和四十五年度から五〇年にかけ、養豚パイロット事業地として全国協会の事業を導入し、種豚の改良増殖と肉豚生産を行い、昭和五一年度から五四年度にかけ、第一次改修事業を導入して、規模拡大と業構造改善事業を導入して、規模拡大と推進銀行の設置を行い、耕種農家との連繫を図っている。昭和五四年肉豚出荷実績は、一六、八〇八頭に昇り、五五年度は、一九、〇〇〇頭で三%の増頭出荷を計画している。

今後の肉豚流通は、広域食肉流通センターが建設されることによって、従来の大坂方面への長途出荷に比べ、出荷時間の短縮と輸送費の軽減等によって、さらに経営に大きく寄与するものと考えら

(三) 養豚

四、養

四、養鷄

子豚の保溫について

研究員 片山政男

今年の冬は、厳しい寒さが予測されるが、せっかく生まれた子豚が低温のために全滅したという苦い経験をもつ人もあると思う。

子豚の寒冷死の発生は、庄死事故に比べると少ないが、これから、寒寒の多発シーズンを控え、子豚の保溫が何故必要であるか、どういう点に注意すればよいかななどについて考えてみたい。

初生豚の体温降下

初生豚は被毛と皮下脂肪が少なく、体重の割に体表面積が大きいため、体の熱が奪われやすい。また、熱を産生する源になる体脂肪やグリコーゲンが少ないうえ、体温を調節する機能がないため、寒さに対して無防備の状態といつてもよい。

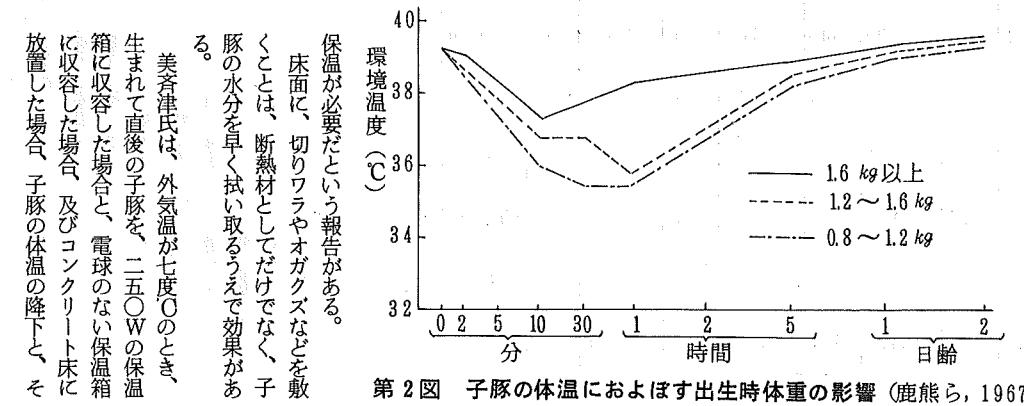
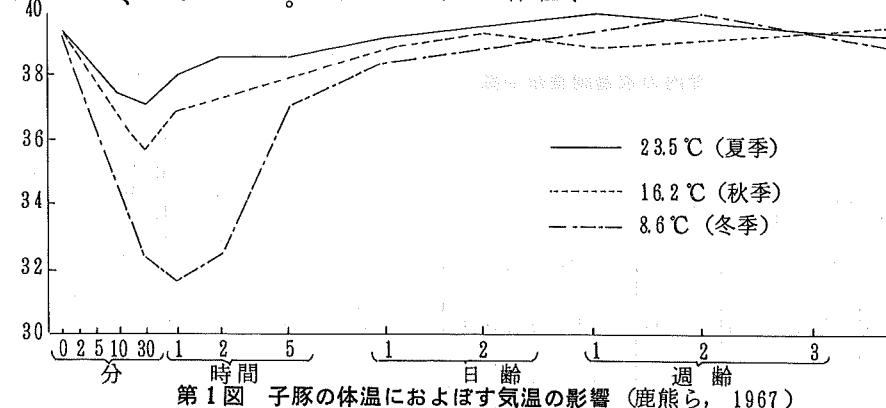
初生豚の体温は、出生後急激に低下し、その後、三〇分から一時間以内に体温の上昇が始まり、出生時の体温（三九℃）

にまで回復するには、一日を要するといわれている。この子豚の体温が下がる程度や回復具合は、子豚の環境温度で左右され、寒冷時ほど体温の低下が大きくなり、回復にも長い時間を要し、条件が悪ければ、回復に一週間を要することもある。

（第一図）

寒い時期に、初生豚を長い時間、保溫しないでおくと、元気がなくなり、毛を立て、うずくまり、震えるようになる。これは、寒さによって体温低下を起こしている症状で、保溫が必要である。

生まれた直後の子豚に付着している水分（羊水など）が蒸発するとき、子豚の熱を奪い、体温の下降を助長する。また、出生時の体重が小さい豚ほど寒さの影響を受けやすい（第一図）。出生子豚に付着している水分拭いて取ることは、子豚の体温を維持させるうえに効果があり、室温が十六度以下では、水分拭うか、



その後の体温の回復具合を比較すると、二五〇Wで保溫した子豚の体温は、一時間後に五~八度○下降した。電球のない保温箱に収容した子豚の体温は、一二度○も下降したが、その後の保溫で回復した。しかし、コンクリート床に放置した子豚は、二〇度○以上も体温が下降し、保溫しても回復しなかった。このことから、出生直後の保溫が大切であると報告している。また、初乳を早く飲ませることが体熱を生産させるうえで有効であると述べている。

生まれた子豚を哺乳させずにおくと、低血糖症のため死んでしまう。特に、寒冷な条件下で低血糖が促進されるので、保溫と、少なくとも二時間以内に初乳を飲まなければならぬ。

子豚の快適温度

子豚の寝姿から快適温度かどうかは判断できる。温度が適当である場合、子豚はあまり重なりあわずに長々と肢を伸ばして氣持が良さそうに見える。温度が不足している場合、子豚は重なりだし、最後には山盛りになって寝て、はみ出した子豚は重なった豚の中へもぐり込む動作を繰り返す。極端に寒い場合には、豚は海老のように体を曲げた姿勢で寝る。逆に温度が高い場合、子豚は完全にバラバラになつて寝て、ときどき肢をピクピク動かし、だんだんより涼しい場所へ移動する。このような子豚の寝姿から温度の

良し悪しが判断できる。

動物が寒さ、暑さの不快感を覚えないで、ただ、皮膚血管の伸縮だけで体温を一定に保てる温度範囲を熱中性温度と呼ぶが、この温度域が子豚にとって快適とは限らないよう、初生後は三二度○、それ以上の日令では、二九~三〇度○を好み、発育が進むに従って快適温度は低下する傾向がみられる。（第一表）

子豚は環境に次第に順応していくが、最初から暖かくしておくと、その温度に慣れてしまい、いつまでも加温が必要となるので、時期をみて温度を下げていくことが好ましい。生駒氏は、子豚に必要な温度を次のように示して、環境温度が急変しない管理の工夫が大切だと述べている。（第一表）

初生豚の行動

生まれ落ちた子豚は、親豚の乳房を探して、二分前後で行動を起こし、親豚の背部や後肢附近を動き回った後、七〇〇分で乳房に到達する。子豚は親豚の体に沿って乳房へ進むが、親豚の後肢に邪魔されて時間を浪費することが多い。母乳を飲んだ子豚は、親豚の乳房や、あと付近に寄り添い暖を取る。やがて、もつと暖かい場所を探して動き回り、暖かい場所がなければ次第に体温が低下して凍死してしまうが、親豚の体から離れないで押しつぶされてしまうことが多い。この場合、近くに暖かい場所があれば、子

豚は互いに寄り添い暖をとる。

無看護分娩の方法が考案されているが、当場では床下給温の設備がないため、夜間に分娩しそうな豚の分娩柵の周囲をパネルで囲い、切りワラやオガクズを十分床に敷き、親豚の後部と背部及び、腹部の三個所に二五〇~一二五Wの赤外線電球を点燈しておき、翌朝、子豚を保温箱へ収容する方法で寒冷死事故を防いでいる。

加温器具

加温には、赤外線電球、保温マット、電熱線、温水を利用した床面加温の利用などがある。

豚の加温器質の中で、現在もっとも広く利用されているのが赤外線電球を用いる方法である。一二五W~五〇Wまでの種々の赤外線電球が市販されているが、生後、間もない時期は二五〇W、日令が進むにつれて、一二〇〇~一二五Wにすると経済的である。また、保溫効果を高めるため、保溫箱が使われる。保溫箱の大さきは、離乳までの子豚が収容できる広さが必要であつて、温度の調節は電球をつりさげる高さを子豚の発育に従つて高くしたり、電球のワット数を変えたりして加減する。（第三表、第四表）

保溫器具は、常に火災の危険にさらされていることを頭に入れておく必要がある。保溫電球がワラの上に落ちると、一分四五秒で火災になるという実験報告も

ある。

一五〇Wの電球では、設置高五cmの場合、床面温度が五〇度Cになる。保温マットを併用する場合には四〇cm以上の間隔を保つ必要がある。保温電球には、過熱防止用のサーモスタートを取り付けたものが良い。落下防止のため、確実な留め金具の使用、落下してもワラなどのカバーや、巻のついたものの使用が望ましい。なお、保温電球が落下したとき、スイッチが切れる装置のものも市販されている。

保温マットもよく利用されるが、赤外線電球の場合と同様に、保温箱を設けることが必要である。また、出生直後の子豚では、赤外線電球を併用して温度を高くする必要がある。床面加温は子豚の腹部から温めるので、子豚の消化生理の面から好ましく、下痢の発生防止に効果があるとの考え方もある。

保温マットを使用する場合、子豚の感電死事故を起さぬようコードを丈夫なもので保護し、防水性、耐摩耗性、洗浄のしやすさなどにもすぐれた製品を選ぶことが大切である。

規模の大きい養豚場では、コンクリートの中に電熱線を埋め込み、加温する方法や、床面に温水パイプを埋め込み、加温する方法などがとられる場合がある。これらの方は、床面の乾燥が期待できる任意の面積について均一な保温ができる。

第3表 体重と子豚の占める床面積 (米田 1975)

体重 (kg)	1.4	3.3	4.4	5.6	7.0	8.5	12.2	14.4
子豚の占める床面積 (cm ²)	312	406	468	562	624	733	858	975

第4表 赤外線電球の加温性能(室温6℃、保温箱使用)

(米田 1975)						
電球の規格	電球の高さ	直下	中心より 15cm	中心より 25cm	中心より 35cm	中心より 45cm
250W	40 cm	38.0 °C	28.0 °C	24.0 °C	24.0 °C	23.0 °C
	50	31.0	26.0	23.0	23.0	23.0
200W	40	27.0	26.5	25.5	24.5	24.0
	50	24.5	26.0	22.5	22.5	22.0
150W	40	25.0	23.5	22.5	22.0	20.0
	50	23.5	21.5	21.0	21.0	19.5

分娩柵の周辺と保温箱を連絡する保温窓ができるなど利点があるが、設備費が高くなつて、故障の際の修理が難しいなどの問題がある。

ま と め

私の趣味の遍歴

農業共済組合連合会

今回、私の趣味について投稿するにあたり、さて私の趣味は……としばし瞑想に耽ってしまいました。
黙考しているうちに私の生い立ちから現在に至る間、それぞれの年代に、心のより処となる趣味らしきものがほのかに色々とられていたことを懐かしく回顧することができました。

私の少年時代は大変な腕白であり、低学年の頃は殆んど毎日先生に叱られていたものですが、ただ、図画、スポーツ、音楽は大好きな学科でした。

私の少年時代は大変な腕白であり、低学年の頃は殆んど毎日先生に叱られていたものですが、ただ、図画、スポーツ、音楽は大好きな学科でした。

五年生のとき描いた絵が入選し、天満屋に展示されたのが切っ掛けで、以後、風景画、歴史画等に没頭していました。

そんな冬のある日曜日、眼が醒めてみると一面の銀世界で、その美事な雪景色に心を打たれ、雪の中で朝から晩まで凍えた手に息を吹きかけながら一枚の水彩画を描き上げたことがあります。

かなりの枚数の絵を描きましたが、当時の絵で残っているのはこの雪景色だけです。

繪のおかげで腕白も直り中学校へ入りましたが、心身の鍛錬に重点がおかれ、武道とか、種々のスポーツに励んだものです。中学校時代は戦時中でもあります。剣道、バーボール、蹴球、水泳、マラソン等ですが、特に長距離を好み、毎日放課後に約八千米位走ることを日課にしていました。

また、水泳も神伝流を習い、これも遠泳が好きで日本海で一日十キロ位泳いだこともあります。

鳥取に在学中は雪がよく降り、毎年一米以上の積雪があり、級友の牧野君に勧められスキーを習いました。

最初の練習は、学校の近くの川の堤防の斜面を滑降したのち、約十米の河原を滑り、川の手前で止るか、直角に向を変えるという困難な訓練で、空腹をかかえて何十回、何百回と練習を重ねました。時には曲りきれず寒冷肌を刺す川の中へ飛び込んだこともあります。だが、この特訓が活き、遂に樹林の山岳を自由に滑降で

活から解放され、大学高専野球が復活し、我が校は全国高専野球で準優勝しましたが、この応援に熱狂し、これが契起となりて今もなお野球気運です。

また、終戦の年、獣医学科で音楽部がクラブを結成しましたが、メンバーはN.H.K.ノード自慢で合格した井本君ほか私も入りました。それで五名の歌手、楽団数名、マネージャーと司会者に高取誠君（現在尼崎酪農委員会事）といった編成で猛練習し、校内ショーや等に出演していたことも懐かしく想い出されます。

社会に出でからは終戦後の厳しい社会環境の中で、勤務と生活に日々追いまくられる日々でしたが、それでもスポーツと音楽だけは心を癒やす糧として愛好していました。

長女にピアノ教師の途を歩ませたのも私の趣味がそうさせたように思います。

私の過去にはこのような趣味の遍歴があつたのですが、停年もあと数年後に泊つた現在、同じ年恰好の方々がそれぞれ立派な趣味を持っておられるのを見て、私も停年後に何か没頭できる趣味を準備

竹原局長さんとお逢いし、話題が絵の話となり、早速先生を紹介願える機会に恵まれ、以後日々の生活の中に油絵という趣味が点燈され、大いなる満足感とストレス解消に役立つてゐる昨日です。

私の趣味も生い立ちとともに編歴しましたが、今後はこの油絵を終生の伴侣として、そして趣味の終着駅として大切に携えて歩んでゆきたいと念じています。



す。また私は生来瘦せていたので電信柱
という俗名がついていたのですが、肥り
たい一心で相撲部に入りマネージャーを
いました。
診療業務から離れ、四季の自然美から
隔離されて既に十二年になり、自然美に

This image shows a vertical strip of a repeating pattern. The pattern consists of small, dark dots arranged in a grid-like structure, creating a textured, dotted appearance. The strip is oriented vertically, with the top edge showing a slight irregularity and some larger, more prominent dots.

A black and white line drawing of a rhinoceros standing in shallow water, facing left. The rhino has a large body, a small horn on its forehead, and a thick tail. It is standing on its hind legs with its front legs partially submerged in the water.

謹賀新年

ALFA-LAVAL

畜産機械の販売・サービス

業務内容

- ハーベストアサイロの建設
- ボトム・アンローダーのメンテナンス
- 酪農機械のサービスと販売・設計
- コンサルタント
- ミルカー ●バーンクリーナ
- ウォーターカップ ●アルファマット
- アルドー ●バルククーラー
- デュオバック 300
- 畜産諸資材その他
- 糖蜜飼料の販売
- スラリストア・システム
- 乳房炎検知器

酪農家とのパイプラインをめざす



大阪アルファサービス株式会社

本社 大阪市西区新町1丁目3番12号
四ツ橋セントラルビル1号館 〒550
電話 (06) 541-0913・533-0567

岡山県畜産史

申し込み受け付け中

A5版 1314頁 定価 8,000円

(本史は1,500部の限度版で会員に頒布しましたが残部が150部ありますので予約価格でお頒ちします。)

概要

- | | |
|----------------------|-----------|
| 第1編 総論 | 第2編 各論 |
| 第1章 旧藩までの畜産の概要 | 第1章 酪農の発達 |
| 第2章 明治、大正年代における畜産の発達 | 第2章 和牛の変遷 |
| 第3章 昭和前期における畜産の推移 | 第3章 養豚の進展 |
| 第4章 昭和戦後期における畜産の発達 | 第4章 養鶏の発達 |

- | | |
|------------|--------------------|
| 第5章 その他の家畜 | 第6章 牧野飼料作物ならびに流通飼料 |
| 第7章 家畜衛生 | |

◎申し込み先 岡山県畜産会 岡山市磨屋町9-18 農業会館内 TEL 0862(22)8575

定価	印 刷 所	發行所	第三卷	昭和五十六年一月二十二日	第一号	岡山畜産便り (一月号)
一部 一八〇円	ふじ丸の内	岡山市高岡山振替	岡山県農業振替人	岡山市磨屋町八番会内	原屋五七五番	花竹原屋五七五番会内

新年、おめでとうございます。
今年は酉年というわけで、新年号の表紙は伊藤若冲の筆になります雄鶏図で飾らせていただきました。
伊藤若冲は享保元年二月八日、京都に生まれ、狩野に学び、光琳を研究し、彼は特に、鶏画に長じていたようですが、常に数十羽の鶏を飼っていたそうです。
福田種鶏場が明治三十七年に出版された若冲名画集を蔵しておられ、ご好意により、その中から表紙として使わせていただきました。

あとがき

枝肉格付状況・市況

1. 牛 肉

11月岡山市場出荷分(乳牛を含む)

格付	頭数	平均単価
極上	1	2,470/kg
上	10	2,051
中	94	1,697
並	176.5	1,371
外	107.5	702
計	389	1,344
「上」以上格付率	2.8	

2. 豚 肉

11月岡山市場出荷分

格付	頭数	平均単価
極上	13	641/kg
上	455	604
中	424	569
並	387	528
外	217	376
計	1,496	532
「上」以上格付率	3.13	

3. 55年12月子牛市況

市場	性別	入場頭数	取引頭数	1頭当たり価格			平均体重	kg当り単価
				最高	最低	平均		
久世	♀	111	101	1,062,000	281,000	453,009	214	2,117
	♂	1	1	803,000	803,000	803,000	270	2,974
	又	137	129	443,000	217,000	337,686	232	1,455
	計	249	231			390,123	224	1,742
津山	♀	223	208	910,000	160,000	398,462	213	1,868
	又	265	261	430,000	147,000	328,153	232	1,414
	計	488	469			359,335	224	1,604
	♀	111	101	1,056,000	150,000	420,396	218	1,922
新見	又	144	139	467,000	181,000	359,691	243	1,465
	計	255	240			385,238	232	1,661
	♀	445	410	1,062,000	150,000	417,302	214	1,950
県	♂	1	1	803,000	803,000	803,000	270	2,974
	又	546	529	467,000	147,000	338,765	235	1,442
	計	992	940			373,514	226	1,653

4. 55年12月子豚市況

区分	入場頭数	取引頭数	1頭当たり価格		平均
			最高	最低	
	1,062	1,062	40,800	9,400	24,244